モードMode Modeは語る

中野 香織

高級白衣の意義

人間としての医師の服

近年の医学部では「白衣式」が行われている。臨床実習に入る前に、医師をめざす者としての倫理や心構えを自覚する式典である。世話になった人々の前で白衣を着る瞬間、専門職としての自覚が目覚めるであろうことは想像に難くない。

そうした儀式を経験すると、医師となって日々、白衣に袖を通すたびに記憶がよみがえり、プロとしてのスイッチが入るのではないか。それがぺらぺらの白衣ではなく上質な白衣であれば気持ちの奮い立ち方も違ってくるだろう。

「いい白衣があったら絶対買うのに、ない」とこぼす同窓生の医師の声を聞き、テイラーの技術を用いた高級白衣を作り、ネットで販売を始め、成功を収めた起業家がいる。大和新さんである。2008年に「クラシコ」を創業して12年。今では国内の医師30万人のうちの約15%がクラシコの白衣を着用している。ナースウエア、スクラブ（手術着）、聴診器のデザインも手がけるようになった。

「医師だって人間。いい白衣に袖を通すと背筋が伸び、モチベーションが上がる。そんな気持ちが患者さんに対してもよい効果を及ぼし、医療機関への信頼につながっていく」と大和さん。

従来のぺらぺらした白衣に比べて7倍の価格だが、クラシコの白衣には背裏がつき、袖口は本切羽の仕様で内ポケットもある。本格的なスーツのような仕立てなのだ。高級白衣が存在しなかったのが不思議だが、それは医療用の過酷なクリーニングに耐えうる備品としてとらえられてきたからだ。ＢｔｏＢで「コスト」「安全」重視の白衣が作られ、医師の気持ちなど無視されていたのである。

創業から続く定番のクラシコテーラー

クラシコは常識に挑戦した。医療用クリーニングにも耐えうる素材を糸から開発し、服に意欲が左右されることもある繊細な人間としての医師のため白衣を作ったのである。着る人の気持ちに寄り添うクラシコの白衣は、現在、領域を広げ、板前、時計職人など「研究」色の強い業種でも愛用者を増やしている。

一人の人間として働く医師の気持ちを豊かにしたい、という思いから生まれた上質な白衣。イノベーションのきっかけはシンプルで本質的だ。（服飾史家）